

2024年度事業報告

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第72回総会（2024年6月27日～29日）
会場：神戸国際会議場、神戸国際展示場1号館
会長：迎 寛（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科呼吸器内科学分野）
2. 第71回東日本支部総会（2024年10月17日～19日）
会場：東京ドームホテル
会長：木村利美（順天堂大学医学部附属順天堂医院薬剤部）
3. 第72回西日本支部総会（2024年11月14日～16日）
会場：神戸国際会議場、神戸ポートピアホテル
会長：掛屋 弘（大阪公立大学大学院医学研究科臨床感染制御学）
4. 関連国際学会として
33rd International Congress of Antimicrobial Chemotherapy (ICC)
2024年11月3日～6日（トルコ）

B) 会務

1. 年度末正会員数 8,342名
年度末賛助会員数 19団体、団体会員数 85団体
2. 2024年度評議員会は2024年6月27日に、同定期総会は6月28日に神戸国際展示場で開催された。
3. 新評議員（2024年4月～2025年3月）
東日本支部6名（現在 195名）
木村 宗芳（虎の門病院臨床感染症科）
小松 敏彰（北里大学病院薬剤部／危機管理部感染対策室）
馳 亮太（成田赤十字病院感染症科）
平井 潤（日本医科大学千葉北総病院感染制御部）
吉藤 歩（慶應義塾大学医学部感染症学教室）
渡邊 哲（千葉大学真菌医学研究センター臨床感染症分野）

西日本支部5名（現在 197名）
江口 洋（近畿大学医学部眼科学教室）
岡田 直人（山口大学医学部附属病院薬剤部）
加藤 秀雄（三重大学医学部附属病院薬剤部）
田中 健之（長崎大学病院感染制御教育センター）
八木 祐助（高知大学医学部附属病院薬剤部・感染管理部）
4. 理事会6回開催

2024年4月、6月（2回）、9月、12月、2025年3月

C) 事業報告

1. 編集委員会

1) 日本化学療法学会雑誌（委員長 荒岡秀樹）

・編集委員会 7回開催

・編集状況

2024年 第72巻3号～6号

一般誌 4冊（掲載論文数8編）

総説1編、原著4編、症例報告1編、短報2編

2025年 第73巻1号～2号

一般誌 2冊（掲載論文数4編）

症例報告2編、委員会報告2編

新薬特集号（Cefiderocol）総説8編

その他編集中 1冊

・各総会の一般演題の中から編集委員会推薦の演題を選び、推薦論文の依頼を行った。

・投稿規程の改訂作業を始めた。

・「新編集委員長より」において、新編集委員会として当面重点を置いて取り組む編集方針を公表した。

2) Journal of Infection and Chemotherapy（委員長 泉川公一）

・編集状況

2024年

Vol. 30 No. 4～12（掲載論文数 174編）

2025年

Vol. 31 No. 1～3（掲載論文数 158編）

・Reviewer of the Yearを選考し、前田真之評議員（昭和医科大学薬学部臨床薬学講座）が受賞した。

・JIC Award受賞

Tomoyuki Ishigo, Satoshi Fujii, Yuta Ibe, Tomohiro Aigami, Keita Nakano, Masahide Fukudo, et al.

「Flowchart for predicting achieving the target area under the concentration-time curve of vancomycin in critically ill Japanese patients: A multicenter retrospective study」 (Vol. 30 No. 4 p. 329-336)

3) 用語委員会（委員長 重村克巳）

抗菌化学療法用語集改訂版をホームページ公表した。

2. 学術委員会（委員長 浜田幸宏）

・学術奨励賞受賞者

第72回学術集会

基礎部門

高田 慎吾（北海道科学大学 薬学部 薬物治療学分野）

「Piperacillin/tazobactam の併用が vancomycin 誘発腎毒性に及ぼす影響
～近位尿管上皮細胞を用いた検討～」

臨床部門

田中 康大（佐世保市総合医療センター呼吸器内科／

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻呼吸器内科学）

「九州における肺 NTM 症の多施設共同後ろ向き研究：肺 MAC 症に対する
治療実態と予後の検討」

日本化学療法学会雑誌 第 72 巻 6 号 p.568-576, 2024

先崎 貴洋（日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部／感染制御部）

「Tazobactam/piperacillin と vancomycin または teicoplanin 併用療法における
重症度を加味した急性腎障害発生率の多施設検討」

Journal of Infection and Chemotherapy Vol.30 (10) p.1054-1060, 2024

井本 和紀（大阪公立大学大学院医学研究科臨床感染制御学）

「Evaluating the association of body mass index with COVID-19 severity and
mortality using Japanese administrative claims data」

3. 学会賞選考委員会（委員長 掛屋 弘）

志賀潔・秦佐八郎記念賞、上原感染症・化学療法研究奨励賞および新規創設の
Young Challenger Award の選考を行った。なお、上原感染症・化学療法研究奨励賞
に関しては、2024 年度で応募を終了することになった。

志賀潔・秦佐八郎記念賞

受賞者：石井良和（広島大学国際連携機構環境遺伝生態学分野）

研究テーマ：β-lactamase に関する分子生物学的・生化学的・構造生物学的手法を
用いた包括的研究

上原感染症・化学療法研究奨励賞

受賞者：川元康嗣（長崎大学病院検査部）

研究テーマ：緑膿菌感染症の適切な治療薬選択の確立に向けた次世代シーケンサー
による薬剤耐性遺伝子検出法の開発

Young Challenger Award

受賞者：石郷友之（札幌医科大学附属病院薬剤部）

研究テーマ：抗菌薬の適正使用に関するエビデンスの創出

受賞者：田代 渉（大分大学医学部附属病院薬剤部）

研究テーマ：多剤耐性菌感染症の克服を目指した基礎から臨床と臨床から基礎への
シームレスな研究への挑戦

受賞者：朝居祐貴（三重大学医学部附属病院薬剤部）

研究テーマ：Albumin-Bilirubin スコアを活用した抗微生物薬誘発性肝障害の予防
戦略確立：臨床と基礎研究を用いた多角的アプローチ

受賞者：定平卓也（岡山大学病院泌尿器科）

研究テーマ：膣から紐解く反復性膀胱炎の病態解明と乳酸菌膣坐剤の実用化

受賞者：五十嵐裕貴（横浜総合病院薬剤部）

研究テーマ： β -ラクタム薬/ β -ラクタマーゼ阻害薬の併用療法における *in vivo* pharmacokinetics/pharmacodynamics 評価方法の構築

4. 国際渉外委員会（委員長 大毛宏喜）

- ・2024年11月3日～6日にトルコ（イスタンブール）で33rd International Congress of Antimicrobial Chemotherapy (ICC)が開催され、当学会との共催シンポジウム「Antimicrobial resistance and one health」を行った。
- ・2026年11月9日～12日にマニラ（フィリピン）で34rd International Congress of Antimicrobial Chemotherapy (ICC)が開催される予定であり、当学会との共催シンポジウムを検討した。

5. 薬剤感受性検査検討委員会（委員長 荒岡秀樹）

Lascufloxacin のディスク拡散法の精度管理限界値と臨床的ブレイクポイントの設定について検討し、東日本合同学会および西日本合同学会にて委員会報告を行った。また、日本化学療法学会雑誌 Vol.73 (2) に委員会報告として掲載した。

6. プロバイオティクス製剤適正使用検討委員会（委員長 森永芳智）

委員会においてプロバイオティクス製剤の使用状況に関するアンケート調査の解析を行った。

7. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会（委員長 堀野哲也）

- ・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催
年次テーマ：適正使用の流儀：Going David!
第70回 2024年6月27日（木）神戸国際会議場
第71回 2024年8月24日（土）東京国際フォーラム
第72回 2024年10月17日（木）東京ドームホテル
第73回 2024年11月14日（木）神戸国際会議場
- ・第71回セミナーの映像を収録し、e-learning を実施した。
- ・委員会を数回開催した。
- ・2024年11月30日（土）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで指導医試験を実施した。
- ・本年度認定医・認定歯科医師の新規申請、認定更新申請を受付し、認定した。
- ・2025年1月1日付けで認定証を発行した。

8. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会（委員長 木村利美）

- ・第28回講習会は日本TDM学会にあわせて2024年7月13日（金）にTKP札幌駅カンファレンスセンターで開催し、第29回講習会は日本医療薬学会にあわせて2024年11月3日（日）にトーセイホテル&セミナー幕張で開催した。

- ・認定薬剤師試験を 2025 年 1 月 26 日（日）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボールで実施した。
- ・2025 年 3 月 1 日付で認定薬剤師を認定した。

9. 外来抗感染症薬認定薬剤師認定委員会（委員長 藤村 茂）

- ・認定試験問題の追加作題およびブラッシュアップを実施した。
- ・外来抗感染症薬認定薬剤師試験を 2024 年 12 月 8 日（日）に実施した。
- ・2025 年 3 月 1 日付で認定薬剤師を認定した。

10. 四学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会（実務委員長 高橋 聡）

1) 第 10 回（2018 年）

- ・歯科口腔外科領域（2 回目）
全国 21 施設から収集した 515 株の感受性測定結果について、JIC に投稿した。

2) 第 12 回（2020 年）

- ・単純性膀胱炎（3 回目：19 薬剤、目標 400 株）
全国 42 施設から収集した 569 株の感受性測定結果について JIC に投稿し、2024 年 Vol. 30（4）に掲載された。
- ・複雑性尿路感染症（4 回目：39 薬剤、目標 800 株）
全国 32 施設から収集した 608 株の感受性測定結果について JIC に投稿し、2024 年 Vol. 30（7）に掲載された。
- ・耳鼻科領域感染症（3 回目：41 薬剤・目標 1000 株）
全国 37 施設から収集した 377 株の感受性測定結果を日本感染症学会・日本化学療法学会合同学会（2024 年 6 月・神戸）で報告した。

3) 第 13 回（2021 年）

- ・小児科領域感染症（2 回目：32 薬剤・目標 1,000 株）
全国 18 施設から収集した 1,498 株の感受性を測定し、遺伝子検査を実施した。

4) 第 14 回（2022 年）

- ・呼吸器感染症（10 回目：目標 1,100 株、43 薬剤）
全国 28 施設から収集した 1,057 株の感受性を 43 薬剤で測定し、成績を日本感染症学会・日本化学療法学会合同学会（2024 年 6 月・神戸）および日本臨床微生物学会（2025 年 1 月・名古屋）で報告した。
- ・手術部位感染症 (SSI)（4 回目：目標 1,000 例、44 薬剤）
全国 18 施設より収集した 855 株について感受性測定を行い、成績を日本臨床微生物学会（2025 年 1 月・名古屋）で報告した。

5) 第 15 回（2023 年）

- ・歯科・口腔外科領域（3 回目：Streptococcus spp. 32 薬剤、嫌気性菌調査薬剤 19 薬剤、目標 400 株）
全国 23 施設で実施していたが、嫌気性菌（とくにポルフィロモナス属）の株数が少なかった為、研究期間を 2025 年 2 月末まで延長した。
- ・Clostridioides (Clostridium) difficile 感染症（第 1 回：5 薬剤、目標 200 株）
全国 10 施設から収集した 129 株の感受性を測定した。

6) 第 16 回（2024 年）

- ・皮膚科（3回目：目標 1,000 株、34 薬剤）
全国 55 施設で菌株収集を実施することになった。
- ・産婦人科（1回：200 株、64 薬剤）
全国 15 施設で菌株収集を始めた。

7) 菌株収集の輸送について

2010 年から 2016 年までに収集した 12,594 株を北里大学から国立感染症研究所薬剤耐性研究センターへ輸送した。

8) ホームページの更新

四学会合同事業となった為、ホームページをリニューアルした。

11. 真菌サーベイランス委員会（委員長 掛屋 弘）

真菌血症の検出菌における抗真菌薬感受性サーベイランスを 2 年間の予定で実施することになった。

12. レジオネラ治療薬評価検討委員会（委員長 宮下修行）

成人肺炎診療ガイドライン 2024 では、適正抗菌薬使用（AMR 対策）の観点からレジオネラ診断予測スコアの活用が推奨されており、本スコアの有用性を前向きに検討する必要がある為、2 年間で集積した新型コロナウイルス・オミクロン株肺炎症例と 30 年間で集積したオウム病症例を対象にレジオネラスコアの有用性を検討し、委員会報告としてそれぞれ JIC に投稿した。オミクロン株肺炎症例に関しては、JIC Vol.31（3）に掲載され、レジオネラ診断予測スコアの検証論文については Vol.31（4）に掲載された。

13. OPATワーキンググループ（委員長 馳 亮太）

日本感染症学会と合同でワーキンググループを立ち上げ、わが国における OPAT（Outpatient Parenteral Antimicrobial Therapy：外来静注抗菌薬療法）実施体制の整備を行うことになった。

14. CDI診療ガイドライン作成委員会（委員長 國島広之）

Clostridioides difficile 感染症診療ガイドライン第 3 版に向けて改訂作業を始めた。

15. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会（委員長 光武耕太郎）

MRSA 感染症の診療ガイドライン 2024 の冊子版を発行し、Executive Summary については日本化学療法学会雑誌第 72 巻 3 号（2024 年 5 月）に掲載した。

16. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会（委員長 木村利美）

バンコマイシン TDM ソフトウェア PAT を ver.3.0 から ver.4.0 に更新した。

17. 術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会
（委員長 三嶋廣繁）

術後感染症予防抗菌薬ガイドラインについて会員からの質問に回答した。

18. 薬剤耐性（AMR）治療ガイダンス作成委員会（委員長 柳原克紀）

薬剤耐性（AMR）治療ガイダンスの作成に向けて原稿を執筆し、委員会で読み合わ

せを行った。

19. 淋菌感染症アドホック委員会（委員長 三嶋廣繁）

男性尿道炎患者より分離された淋菌株の感受性測定ならびに分子疫学的解析を行った。

20. 7学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会（委員長 舘田一博）

- ・7月3日に委員会を開催し、AMR関連の海外および国内の動向、セフィデロコルを例に本邦プル型インセンティブの現状と課題について情報共有を行った。
- ・12月4日に委員会を開催し、第11回日経FT感染症会議についての情報共有を行った。

21. 抗微生物薬適正使用推進検討委員会（委員長 川口辰哉）

- ・第1回8学会合同委員会を2024年5月27日（Web）に開催し、「抗微生物薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス改訂版」に関する意見交換会を行った。
- ・「抗微生物薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス2024年度改訂版」を日本化学療法学会雑誌第73巻2号（2025年3月）に掲載した。

22. 外来抗菌薬適正使用調査委員会（委員長 大曲貴夫）

- ・2025年2月に全国の診療所医師を対象とした抗菌薬適正使用に関する第4回アンケート調査を実施した。
- ・第2回の全国の診療所医師を対象とした抗菌薬適正使用に関するアンケート調査結果を委員会報告としてJIC Vol. 31 (2) に掲載した。

23. Key Drug選定ワーキンググループ（委員長 石和田稔彦）

- ・感染症治療薬のKey drugsについて見直しを行った。
- ・厚生労働省から日本医学会を通じて依頼があった「安定確保医薬品の見直しに係る候補成分の提案」について検討した。

24. AST育成プログラムワーキンググループ（委員長 北原隆志）

下記のAST講習会をWebで開催した。

- ・第6回AST講習会「新規ガイドラインを考慮した今後のMRSA感染症診療」（2024年12月9日）Webinar登録人数605名
- ・第7回AST講習会「抗微生物薬毎のAST活動の実際～我々はこうやっています！～」（2025年2月13日）Webinar登録人数361名

25. 3学会合同呼吸器感染症予防促進委員会（委員長 迎 寛）

日本呼吸器学会および日本感染症学会と合同で、9月29日にWeb講演会「なくそう、ふせごう呼吸器感染症」を開催した。

26. 学術集会開催支援ワーキング（委員長 安田 満）

2025年および2026年、2027年に開催の各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書について確認した。

27. 社会保険委員会（委員長 渡邊 学）

医薬品・医療機器・体外診断用医薬品供給停止品目および経過措置移行予定品目に

ついて検討した。

28. 倫理委員会（委員長 志馬伸朗）

倫理委員会規程を作成した。

29. インфекションコントロールドクター (ICD)制度

2024年12月 認定者34名

(2) 2024年度事業報告の附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告附属明細書「事業報告書内容を補足する重要な事項」に記載すべき事項はない。

2025年度事業計画

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第73回総会（2025年5月8日～10日）
会場：パシフィコ横浜ノース
会長：川名明彦（防衛医科大学校内科学講座（感染症・呼吸器））
2. 第72回東日本支部総会（2025年9月24日～26日）
会場：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター
会長：菊地利明（新潟大学大学院医歯学総合研究科呼吸器・感染症内科学分野）
3. 第73回西日本支部総会（2025年11月28日～30日）
会場：福岡国際会議場
会長：高田 徹（福岡大学病院感染制御部/医学部腫瘍・血液・感染症内科学）
4. 関連国際学会として
20th Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection (APCCMI 2025)
2025年11月2日～4日（タイ・バンコク）

B) 会務

1. 理事会、評議員会の開催について
理事会年5回、評議員会 年1回を予定
2. 関連団体への対応
日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

C) 事業計画

1. 編集委員会

- 1) 日本化学療法学会雑誌
 - ・6冊発行予定（第73巻3～6号、第74巻1～2号）
 - ・Supplement（新薬特集号：Cefiderocol）を発刊した。
 - ・編集委員会を6回開催する。
 - ・投稿規定を改訂する予定である。
 - ・第73回日本化学療法学会総会の特別企画3「学会誌の活性化に向けて－現状と課題－」で日本化学療法学会雑誌編集委員長の立場からとして講演し、投稿数増加に向けた働きかけを行う予定である。
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
 - ・電子版12号を発刊する予定。
 - ・編集委員会を数回、開催する。
 - ・JIC AwardおよびReviewer of the Yearを選考する。
- 3) 用語委員会
必要があれば適宜、対応していく予定である。

2. 学術委員会

学術奨励賞を選考する。

3. 学会賞選考委員会

志賀潔・秦佐八郎記念賞および Young Challenger Award の選考を行う。

4. 国際渉外委員会

2025年11月2日～4日にバンコク（タイ）で The 20th Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection (APCCMI 2025) が開催される予定である。

5. 三学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会（委員長 平松和史）

β ラクタマーゼ阻害薬合剤のブレイクポイントについて検討する予定である。

6. 薬剤感受性検査検討委員会

3学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会と連携し、日本で直近上市された β -lactam/ β -lactamase inhibitor や cefiderocol などの臨床的ブレイクポイントの設定について検討する。

7. プロバイオティクス製剤適正使用検討委員会

プロバイオティクス製剤の使用状況に関するアンケート調査についての学会誌報告（委員会報告）を行う予定である。

8. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会

1) 抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定

年次テーマ：「ショック」

第74回 2025年5月10日（土）パシフィコ横浜ノース

第75回 2025年8月30日（土）東京国際フォーラム

第76回 2025年9月24日（水）朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

第77回 2025年11月28日（金）福岡国際会議場

※第75回は収録し、後日、e-learning を実施する予定である。

2) 抗菌化学療法認定医および指導医の資格認定

- ・10月末 指導医・認定医・認定歯科医の認定申請を締め切る。
- ・11月22日（土）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで指導医試験を実施し、認定申請審査の委員会を開催する予定である。
- ・2026年1月1日付けで認定
上記事業計画を円滑に遂行するため、委員会を数回開催予定。

9. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会

- ・第30回講習会は日本環境感染学会に合わせて2025年7月12日（土）に横浜で開催する予定であり、第31回講習会は日本医療薬学会に合わせて2025年11月に神戸にて開催する予定である。
- ・2026年1月25日（日）に認定薬剤師試験を実施し、認定作業を行う予定である。
- ・2026年3月1日付けで認定証を発行する予定である。

10. 外来抗感染症薬認定薬剤師認定委員会

- ・委員全員で外来抗感染症薬認定薬剤師試験の問題作成を行う予定である。
- ・2025年12月14日（日）に外来抗感染症薬認定薬剤師試験を実施し、認定作業を行う予定である。
- ・2026年3月1日付けで認定証を発行する予定である。
- ・eラーニング動画コンテンツを作成する予定である。

11. 四学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会

1) 第12回（2020年）

- ・耳鼻科領域感染症（3回目）

全国37施設から収集した377株の感受性測定結果について、JICに論文を投稿する予定である。

2) 第13回（2021）

- ・尿道炎（淋菌）（4回目：10薬剤・目標1200症例）

札幌医科大学が経年的に実施しているサーベイランスで、全国55施設から収集された1,068株の感受性測定結果についてJICに投稿する予定である。

- ・小児科領域感染症

全国18施設にて収集した1,498株の測定結果を日本感染症学会・日本化学療法学会合同学会（2025年5月・横浜）および日本臨床微生物学会（2026年2月・幕張）で発表する予定である。

3) 第14回（2022）

- ・呼吸器感染症（10回目）

全国28施設から収集した1,057株の測定結果をJICに投稿する予定である。

- ・手術部位感染症(SSI)（4回目）

全国18施設より収集した855株についての測定結果について、日本感染症学会・日本化学療法学会合同学会（2025年5月・横浜）で発表する予定である。

4) 第15回（2023）

- ・歯科・口腔外科領域（3回目：Streptococcus spp. 32薬剤、嫌気性菌調査薬剤19薬剤、目標400株）

全国23施設で収集した菌株の感受性測定を行う予定である。

- ・Clostridioides(Clostridium) difficile 感染症（1回目）

全国10施設で収集した129株の遺伝子検査を実施する予定である。

5) 第16回（2024年）

- ・皮膚科（3回目：目標1,000株、34薬剤）

全国40施設で引き続き、菌株収集を行う予定である。

- ・産婦人科（1回：200株、64薬剤）

全国15施設で引き続き、菌株収集を行う予定である。

6) 第17回（2025年）

- ・呼吸器感染症および尿路感染症（急性単純性膀胱炎および複雑性尿路感染症）、小児科（百日咳）を実施する予定である。

7) ホームページの更新

各領域の確定結果をデータベースにアップデートする予定である。

12. 真菌サーベイランス委員会

真菌血症の検出菌における抗真菌薬感受性サーベイランスの参加施設を検討し、菌株収集を開始する予定である。

13. レジオネラ治療薬評価検討委員会

新規抗菌薬のレジオネラ症治療におけるブレイクポイントの評価を行う予定である。

14. OPATワーキンググループ

- ・ OPATで使用する抗菌薬の持続静注投与について、「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」に薬事承認の要望を申請するための準備を行う予定である。
- ・ 薬事承認後に、OPATに使用する携帯型ディスポーザブルポンプの保険収載について、診療報酬改定での保険点数算定を目指す予定である。
- ・ OPATが不適切に実施されないようにするための施設基準の設定やガイドライン作成などに向けた準備を行う予定である。

15. CDI診療ガイドライン作成委員会

Clostridioides difficile 感染症診療ガイドライン第3版に向けて改訂作業を行う予定である

16. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会

- ・ 「抗菌薬 TDM 臨床実践ガイドライン 2022」改訂に向けて作業を行う予定である。
- ・ バンコマイシンの大規模 TDM データによる母集団薬物動態モデルの研究結果をまとめる予定である。
- ・ TDM ソフトウェア PAT をバンコマイシン以外の抗菌薬にも拡大する予定である。

17. 薬剤耐性（AMR）治療ガイダンス作成委員会

第73回総会の委員会報告で、薬剤耐性（AMR）治療ガイダンスの確定した内容を発表し、ガイダンスを公表する予定である。

18. 淋菌感染症アドホック委員会

第73回総会において男性尿道炎患者より分離された淋菌に対する各種抗菌薬の感受性測定の実験報告を行う予定である。

19. 7学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会

Pull型のインセンティブの導入について活動を続けていく予定である。

20. 抗微生物薬適正使用推進検討委員会

第73回総会のシンポジウム6において、「抗菌薬適正使用支援プログラム（ASP）実践のためのガイダンス」について報告し、啓発活動を行う予定である。

21. 外来抗菌薬適正使用調査委員会

全国の診療所医師を対象とした抗菌薬適正使用に関する第4回アンケート調査結果

を纏め、解析する予定である。

22. 3学会合同呼吸器感染症予防促進委員会

呼吸器感染症予防週間に3学会合同で啓発活動を行う予定である。

23. Key Drug選定ワーキンググループ

今後の抗菌薬の供給状況なども踏まえて臨床における評価を適宜見直す予定である。

24. AST育成プログラムワーキンググループ

年2回のAST講習会をWebで開催する予定である。

25. 学術集会開催支援ワーキング

各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書を確認する予定である。

26. 社会保険委員会

医薬品および医療機器・体外診断用医薬品供給停止品目、経過措置移行予定品目に関する検討を行う予定である。

27. 利益相反委員会

日本医学会の動向をみて、利益相反指針および細則を改定する予定である。

28. 倫理委員会

要望があれば適宜、対応していく予定である。

29. インфекションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：2025年10月31日